2018 年 2.26 事件公開学習会

象徴天皇制-何が問題？

～迫りくる代替わりの中で～

敗戦後、日本は無条件降伏をして、神権天皇制は否定され、天皇制（国体）護持派とＧＨＱマッカーサー司令部の政治的妥協で＜象徴天皇制＞がつくられた。

しかし、それは、天皇・天皇制国家の侵略、植民地支配の責任を果たさずにきた、もう一つの無責任国家、象徴天皇制国家の誕生である。

今や＜象徴天皇制＞は、ある種の「国体」であり、批判をすることは、メジャーなメディアではタブー扱いとされる。

安倍政権が、かつてのファッショ化、戦争国家への道に近づこうとするなかで、＜象徴天皇制＞はどう向かうのか。　来年の５月にむけて代替わりがすすめられるなかで、人が人を差別する根源である＜天皇制＞の問題を皆さまとともに考えてゆきたい。

講師：鈴木裕子氏（女性史研究家）

日時：２月２４日（土）午後２時～４時（開場午後１時半）

会場：日本キリスト教

婦人矯風会３階集会室

東京都新宿区百人町2丁目23−5
JR「大久保駅」徒歩１分

資料代：500 円

どなたでもご参加ください

共催：キリスト者遺族の会・日本キリスト教婦人矯風会

連絡先：080－5412－9386（坂内）